

授業改善推進プラン

旭丘中学校

教科名 美術

担当教員 倉科 幸雄

1. 昨年度の授業改善の成果と課題

1 学年はポスターカラー等の道具の扱い方を特に指導した。技術的な向上が見られ意欲的に制作していたが、制作の時間配分が上手くいかない生徒が多かった。どの学年も意欲的に制作していた。

今後の課題は、1 学年は各題材の制作時間が長いので、計画的に時間配分させ、制作するように指導していく。2 学年は集中力や授業規律を徹底し、かつ興味・関心の持てる授業展開になるよう工夫する。3 学年は自分の個性に自信をもって表現し、また表現技法をさらに向上させていくことが課題である。学校全体としては制作への意欲を更に高め、集中力を育成していきたい。

2. 今年度の本校生徒の学習指導上の課題

1 年	<p>①基礎的・基本的内容の定着に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絵画・デザイン・彫刻・工芸の基礎技法を理解・習得する必要がある。 ○制作の基本となるスケッチや色彩、絵の具等の用具の使用方法について丁寧な指導が必要である。 ○安全な道具類の使い方を習得する。 <p>②主体的な学習態度、学ぶ意欲などに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○どのような目的でこの課題に取り組むのかということを理解する必要がある。基本的な技法や用具の扱い方などを丁寧に指導する必要がある。 ○集中して制作に取り組む姿勢を育成する必要がある。
2 年	<p>①基礎的・基本的内容の定着に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○絵画・デザイン・彫刻・工芸の新しい材料、初めて扱う用具の使用法等について理解し、適切に扱う必要がある。 ○表現のための工夫や表現の効果を考えて、意図的・計画的に表現できるようになる必要がある。 ○鑑賞の授業を通して感性を深める必要がある。 <p>②主体的な学習態度、学ぶ意欲に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○美術、特に絵画に対して苦手意識をもっている生徒が多いので、素材に興味をもたせ、自信をもって制作に取り組んでいけるようにする必要がある。 ○長時間の集中力を育成する必要がある。
3 年	<p>①基礎的・基本的内容の定着に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の個性を発見し、自己肯定感をもってそれを表現していけるようになる必要がある。 ○鑑賞の授業を通して感性を深め、感じたことを言語表現できるようになる必要がある。 <p>②主体的な学習態度、学ぶ意欲などに関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ○制作意欲を高め、進んで美術に親しみ、愛好する態度・個性を伸ばすことが求められる。 ○長時間の集中力を育成する必要がある。

2. 今後授業を行っていく上での「指導方法の課題分析」と「具体的な授業改善案」

	指導方法の課題	具体的な授業改善案
1 年	<ul style="list-style-type: none"> ○色や形の美しさを発見し、配色や構成の効果を考えながら平面や立体で表すことができるよう指導していく。 ○安全に配慮した基礎的な用具の使い方を身に付けさせる。 ○教科書や生徒作品、名画、映像を鑑賞し感性・表現の多様さを知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ○混色による色の美しさ、新しい色の発見を目的に色相環・グラデーション・平面構成を制作し、これからの制作に活用できるようにしていく。また、用具を適切に扱えるようになる。 ○色彩や構成の知識、材料、用具の使い方を身に付けさせる。 ○自由に描く喜びが味わえるよう、アイデアスケッチを積極的に取り組ませる。 ○絵画・デザイン・彫刻・工芸の基礎技法を身に付けるための演習に取り組む。
2 年	<ul style="list-style-type: none"> ○自分の感じたこと、想像したことなどを、自分の考えや工夫によって表現できるよう指導していく。 ○よりよい表現のための工夫や表現の効果を考え、意図的・計画的に表現できるようにする。 ○生徒や作家の作品、映像を使用し、鑑賞の仕方を学ぶようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○制作に興味を持てるようにモチーフやテーマの設定を題材によって変えていく。 ○自分らしいもの、人とは違うものを作ることを意識させ、自分の感じたことや考えたことを意図的・計画的に表現させる。 ○生徒の発想の幅を広げ、各制作で有効活用できるような美術室の教材を充実させていく。
3 年	<ul style="list-style-type: none"> ○幅広い分野の制作に積極的に取り組み、新しい制作への喜びや、作品完成時の満足感が得られるようにする。 ○自己の考えや関心事を意識し、それらを作品を通して表現できるようにする。 ○自己を見つめ自分の個性を発見し、自己肯定感をもってそれを表現できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鑑賞作品の充実に努め、各時代の名作や伝統工芸などの鑑賞を通して、それぞれの作品のよさや美しさを感じ取れるよう工夫していく。 ○生徒への声かけを大切にし、適切なアドバイスをしながら、一人一人の多様な個性を伸ばしていけるよう支援していく。 ○自分の考えや関心事を作品に還元するため、美術室にある資料だけでなく、普段から自分で資料集めをさせる。

3. その他(補完的内容及び発展的内容に関する指導について)

- 夏休みや放課後に制作の遅れがちな生徒や、制作時間の必要な生徒に対し補教する。
- 生徒が作りた作品をイメージできるように多くの参考作品を掲示する。
- 鑑賞の授業において、作家の映像や資料を活用し、作品の制作背景まで考察していく。
- 鑑賞の授業において様々な時代・国・表現技法の作品を紹介し、感性と技法の多様さを知る。